

SOSHIN

# 2018 社会・環境レポート

Save The Earth

**双信電機株式会社**  
SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.

双信パワーテック株式会社

双信デバイス株式会社

立信電子株式会社

SOSHIN ELECTRONICS(M)SDN. BHD

# 事業概要

## 2018 社会・環境レポート

### 目次

#### ■事業概要ほか

会社概要・事業拠点・財務ハイライト	1
事業領域と関連製品	2
社長メッセージ・コーポレートガバナンス	3
企業行動指針	4

#### ■社会性報告

人間性の尊重、 快適な職場環境の確保	5
地域社会との協調、 社会貢献活動の推進	6

#### ■環境報告

環境マネジメントシステム	7
環境保全活動の概要	8
環境会計	9
物質収支・含有化学物質管理	10
環境負荷低減の取組み	11
省エネ対策事例	12
資源活用の取組み	13
アンケート	14

### 編集方針

このレポートは双信電機グループの社会・環境にかかわる取り組みを報告しています。

#### 【対象期間】

2017年4月～2018年3月

#### 【対象範囲】

双信電機株式会社  
双信パワーテック株式会社  
双信デバイス株式会社  
立信電子株式会社  
双信エレクトロニクスマレーシア  
2018年6月発行

## ■会社概要 (2018年3月末現在)

社名：双信電機株式会社  
英文名 SOSHIN ELECTRIC CO.,LTD.  
URL <http://www.soshin.co.jp>

東京本社 〒105-0023  
東京都港区芝浦1丁目1番1号 浜松町ビルディング14F  
Tel.03-5730-4500 Fax.03-5730-4504

創業：1938年（昭和13年）12月  
設立：1944年（昭和19年）4月  
資本金：3,806百万円（2018年3月末現在）  
従業員数：835名（2018年3月末現在）

## ■事業拠点

### 【国内営業拠点】

東京・営業本部  
大阪営業所 / 名古屋営業所 / 佐久営業所 / 九州営業所

### 【国内製造・技術拠点】

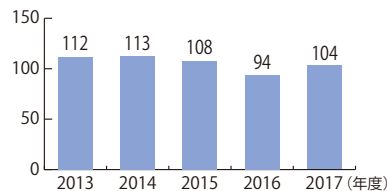
浅間工場、千曲技術センター

### 【グループ会社】

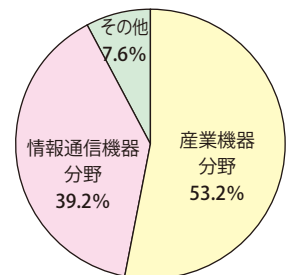
双信パワーテック株式会社  
双信デバイス株式会社  
立信電子株式会社  
双信エレクトロニクスマレーシア  
双信エレクトロニクス・オブ・アメリカ  
双信エレクトロニクスヨーロッパ  
双信華科技（深圳）有限公司  
台湾双信電機股份有限公司

## ■財務ハイライト

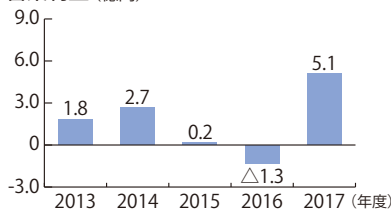
### ■売上高 (億円)



### ■市場別売上高比率 (2017年度)



### ■営業利益 (億円)



# 事業領域と関連製品

双信電機グループは産業機器分野と情報通信機器分野で、時代のニーズとお客様の期待に応え、環境負荷に配慮し小型・高性能・廃棄の少ない製品づくりを行い、低炭素社会の実現に貢献しています。

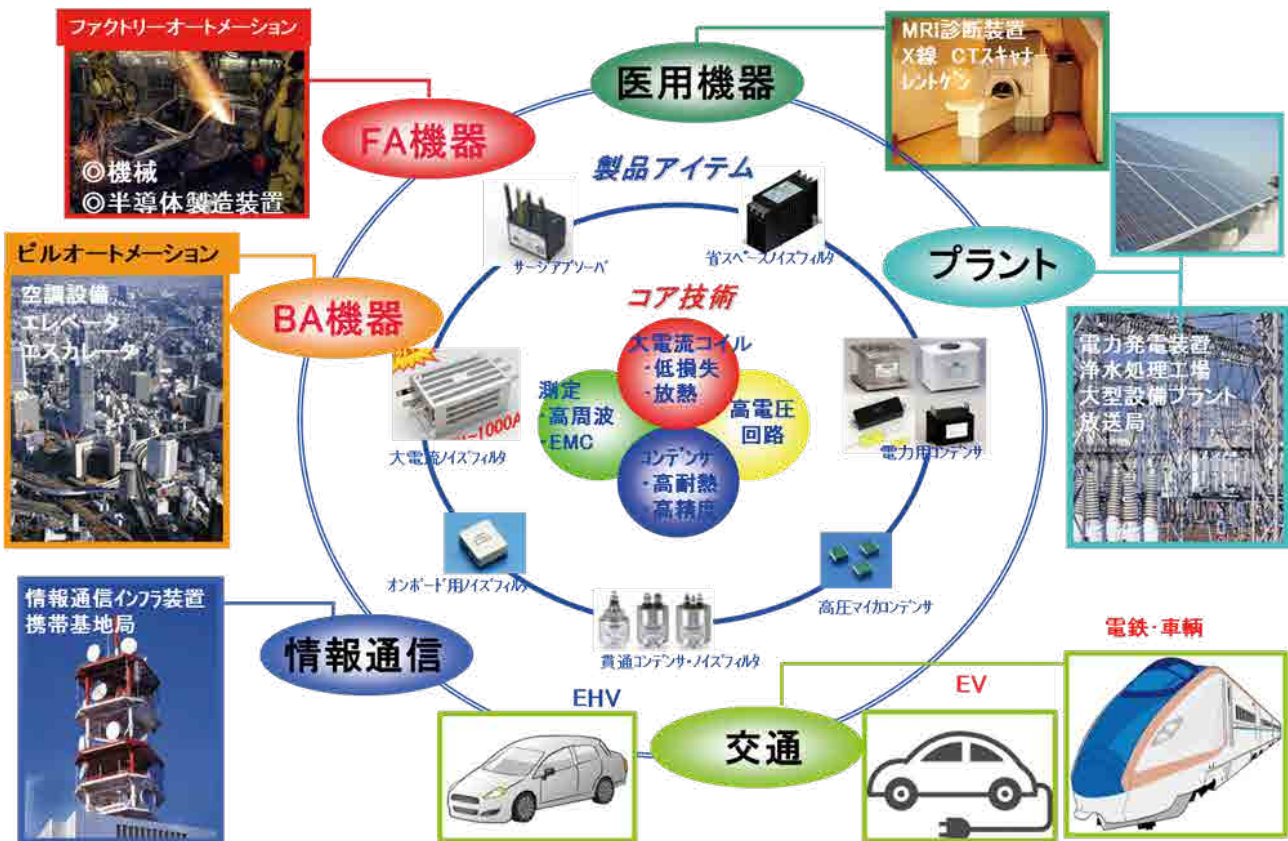
## 【産業機器分野】

### ・ノイズ関連

半導体製造装置や工作機械などの産業分野、空調エレベーターなど暮らしを支える設備、地球環境への負荷低減が期待される太陽光発電システムなどの環境・省エネ設備でノイズ障害対策のニーズが高まっています。当社のEMC製品はこれらの装置・設備から発生するノイズ問題を解決し、多くの分野で活躍しています。また、大型電波暗室やオンサイト（出張）によるノイズ測定・診断など、トータルのサポートでお客様のニーズにお応えしています。

### ・カーエレクトロニクス、鉄道

高い信頼性が要求される自動車関連には、普及が進むハイブリッドカー（EHV）や電気自動車（EV）用の急速充電機器などにノイズフィルタ、コンデンサなどが使用されています。また、鉄道車両や鉄道運行管理システムでは各種フィルタやコンデンサが安全安心を支えています。



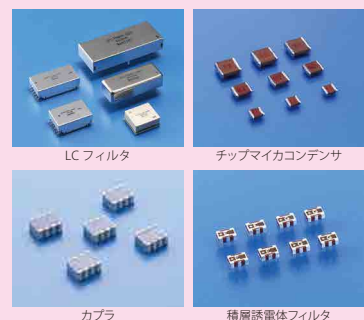
## 【情報通信機器分野】

### ・情報通信インフラ

カプラなどの高周波部品やフィルタ、コンデンサが携帯電話基地局などの情報通信機器市場のインフラ設備を支えています。

### ・情報通信端末

進化し続けるスマートフォンやタブレット端末の無線 LAN やBluetooth 通信用モジュールなどに積層誘電体フィルタが採用されています。



## 社長メッセージ



代表取締役社長  
上岡 崇

最近、日本のいわゆる優良とされる製鋼メーカーや自動車メーカー等に不祥事が続発しています。品質を重視しお客様との信頼関係を第一に考慮すべきところを、データの改ざんや無資格者による検査など、ルールを無視した行動がとられていた実態が明らかになりました。これくらいはよいだろうとの安易さから始まった行動が、年月を経るうちに本来あるべき姿を見失わせていたといえると思います。

このような他社の動向を対岸の火事とはせず、弊社においてお客様と交わした約束に基づいてきちんと製品が作られているかを改めて検証し、ルール違反がないことを確認いたしました。企業のCSRが大きく問われる現状において、会社を守り従業員を守っていくためにはCSRの意識を浸透させ、行動していく必要があります。今後も逐次検証を進めてまいります。

また、政府が推進する働き方改革につきましても、長時間労働に関する新しいルールに対し社内で周知徹底を図るとともに、残業の実態を逐次フォローしていく体制を整えています。

環境負荷低減の活動につきましては、生産拠点の統合によるエネルギーの節減効果が当期に発現したほか、不良率の改善や省エネ設備の導入が成果として貢献しています。

また、社会貢献につきましても、拠点のある各地でイベント等を通じて地域の皆様との交流を続けています。

企業の存続が、その果たすべき社会的責任の実行の上に成立していることをはっきりと自覚し、今後も活動してまいります。ステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

### ◆コーポレートガバナンス

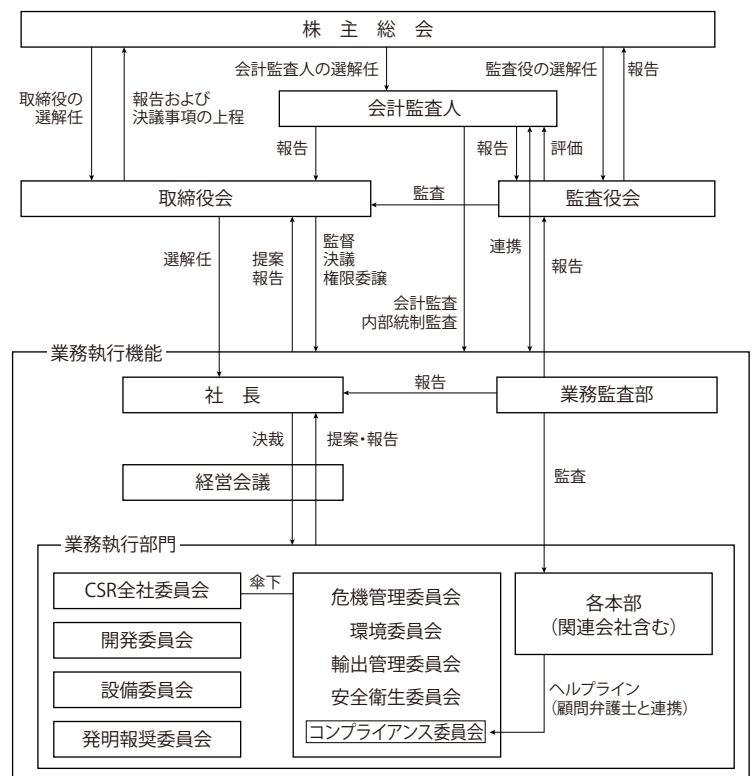
双信電機グループは、企業価値の向上を図ることを経営上の重要な課題の一つと位置づけております。

コーポレート・ガバナンスの強化は、事業活動の適法性と経営の透明性を高め、会社に関わる全てのステークホルダー（株主、顧客、従業員、取引先、地域社会）から信頼される企業となることに繋がり、企業価値の向上に資する重要な施策と考えております。

その実現に向け、経営組織体制の整備、経営効率の向上、経営監視機能の強化といった取締役会、監査役会等の責務を明確にし、法令順守の徹底に努めております。

また、株主の権利、平等性の確保と対話の促進により、相互に信頼できる関係を築きます。

### ガバナンス体制





## 双信電機グループ企業行動指針

### I 企業理念の実現

#### 【1】より良い社会環境に資する商品の提供

長期のグローバルな視点に立ち、地球環境を守り社会の安全・安心を実現する商品やサービスの提供を通じて、新しい価値の創造に取り組みます。

品質と安全性の追求により、お客様と社会からの信頼を獲得します。

### II 企業活動のあり方

#### 【2】企業情報の開示

経営の透明性を高め、日本ガイシグループに対する社会の信頼を得るために、経営情報、財務情報、商品・サービスに関する情報など、広く社会が求める情報を正確かつタイムリーに発信します。

#### 【3】コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント

各国、地域の法令やルールを守り、国際間の取決めを尊重して、コンプライアンスを徹底します。誠実で高い倫理観のある人材を育成します。また、内部統制システムの構築とリスクマネジメントの実践を通じて、会社の資産や信用、第三者の権利を守ります。

#### 【4】人間性の尊重、快適な職場環境の確保

人材の採用、処遇は公正・公平に行い、安全・快適で、家庭と両立する働きやすい職場環境を提供します。

多様な人材が挑戦できる場と機会を設け、知識や技術の習得を通じて人材の成長を支援します。職場におけるいじめ、差別、ハラスメントなど人権に反する行為の発生を防止し、違反行為があった場合には迅速に適切な対応をとります。

#### 【5】公正、自由、透明な取引の実践

対等な良きパートナーとして、取引先との共存共栄を目指し、公正、自由、透明な取引を行います。また、日本ガイシグループのサプライチェーン全体で、企業の社会的責任を果たす取り組みを推進します。

### III 社会の一員として

#### 【6】地球環境の保全

事業活動を行うすべての拠点、すべてのプロセスで、率先して環境負荷の低減に取り組み、地球環境の保全に貢献します。地域の環境保全活動に協力し、従業員の取り組む活動も積極的に支援していきます。

#### 【7】地域社会との協調、社会貢献活動の推進

各国、地域の社会的課題に関心を持ち、地域に信頼される企業市民であることを目指して、地域のニーズに応じた社会貢献活動に積極的に取り組みます。

#### 【8】ステークホルダーとのコミュニケーション

お客さま、取引先、株主、従業員、地域社会の方々など、すべてのステークホルダーとの対話を通じて、日本ガイシグループへの理解を広げるとともに、寄せられた意見に基づいて会社の活動をレビューし、社会的責任を果たすための取り組みに活かしていきます。

# 社会性報告

## 人 間性の尊重、快適な職場環境の確保

働きがいのある人間らしい雇用を促進

8 働きがいも  
経済成長も



### ◆雇用・採用に関する基本方針

双信電機グループでは事業の中長期成長を見据えた人員計画を立て、雇用の安定に努めています。新卒の計画的採用を行うと共に、社内ローテーションを積極的に展開し、必要な能力・経験を持った人材の適正配置を進め、従業員の働き甲斐、働き易さを意識した活動を推進しています。

### ◆個性と多様性の尊重

障害者雇用については法定雇用率 2.0% を超える 2.88% (2017 年度実績) となっています。また、定年退職後の再雇用制度を導入し、フルタイム、パートタイムなど個人のセカンドライフプランに合わせた柔軟な勤務形態を用意しました。

### ◆ワークライフバランスの実現

女性社員の多くが産前産後休暇や育児休暇制度を利用し、仕事と育児の両立を果たしています。

このほか、リフレッシュ休暇制度や計画有給取得制度を活用し、心身のリフレッシュを図れる制度を整えています。

### ◆安全衛生

双信電機グループでは、従業員の安全及び健康を確保し、快適な作業環境の形成を促進すると共に、業務災害ゼロを目指して安全衛生活動を積極的に展開しています。

主な活動としては、危険要因の顕在化を目指した活動を行い、全国労働安全週間と全国安全衛生週間にあわせて、ヒヤリハット活動・危険予知トレーニングを実施し、従業員からの提案に対処し、大きな成果を上げています。更に拠点相互の設備事故未然防止パトロールも半期ごとに実施し、安全を確実なものにしています。

また、ストレスチェックを実施し、従業員の健康増進を目的に、保健師を活用した健康管理体制も充実させ、従業員の心身の健康維持に努めています。

このような活動により、双信電機グループにおいては重大な業務上災害は過去 7 年間発生していません。引き続き従業員の安全確保と健康維持活動を継続していきます。

### ◆こころの健康づくり

双信電機グループではメンタル不調に関する知識習得、セルフケア、ラインケアなどについて研修会などを実施し、産業医、顧問医、保健師、カウンセラー、産業保健スタッフが一致団結してこころの健康づくりに取り組んでいます。

また、長時間労働対策に関して、管理職への教育、残業時間の管理、定時退社日の徹底などを実施しています。



管理職研修



危険物・特管物緊急時訓練

## 地域社会との協調、社会貢献活動の推進

持続可能な都市及び人間居住を実現

11 住み続けられるまちづくりを



事業概要ほか

社会性報告

環境報告

### 国際ボランティアデー 社会貢献一斉アクション

東京本社が入居するビル内の企業が共同してフェアトレード商品の販売を行ない、開発途上国の生産者支援に参加しました。

※フェアトレードとは、適正価格で商品を購入することで、生産者の生活を支援する仕組みです。



### 高齢者総合支援センターの 避難訓練参加協力

双信パワーテック(株)にて近隣の高齢者総合支援センターの避難訓練に協力しました。



### インターンシップの受け入れ

長野・宮崎地区において、地元の高校生の工場見学や職場体験を実施しました。



### 双信電機杯スポーツ大会による 地域との交流

第17回双信カップテニストーナメント  
(参加 194名)



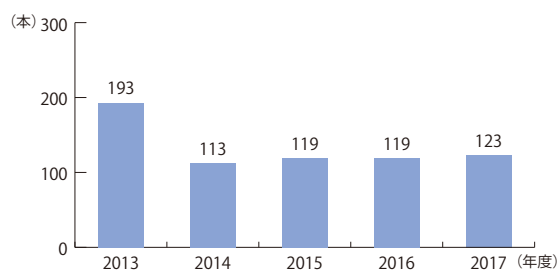
### クリスマスプレゼント

双信パワーテック(株)および双信デバイス(株)にてそれぞれ近隣の保育園にクリスマスプレゼントを贈りました。



### エコキャップ運動

回収したエコキャップは、再生プラスチック原料として換金し、様々な社会貢献活動にあてられています。2017年度はワクチン換算で123本でした。



# 環境報告

## 環境マネジメントシステム

### 環境方針

1. 法令・協定・顧客との取り決めおよび自主基準を順守する。
2. 環境目標を設定し、組織的・継続的な環境負荷低減活動を地域社会とともに推進する。
3. 環境に配慮した製品の開発・設計・製造販売を行う。
4. 環境汚染の予防処置と監視を行う。
5. 教育・啓発活動を進め、従業員および事業に関わる人々すべての役割・責任についての自覚高揚を図る。

#### ◆環境保全活動の推進体制

環境保全に関する双信電機グループの方針・施策は、環境管理担当役員を委員長とする「環境委員会」で決定します。ここで決定した方針・施策は、各サイトの拠点長、環境管理責任者を通じて全社に展開されます。

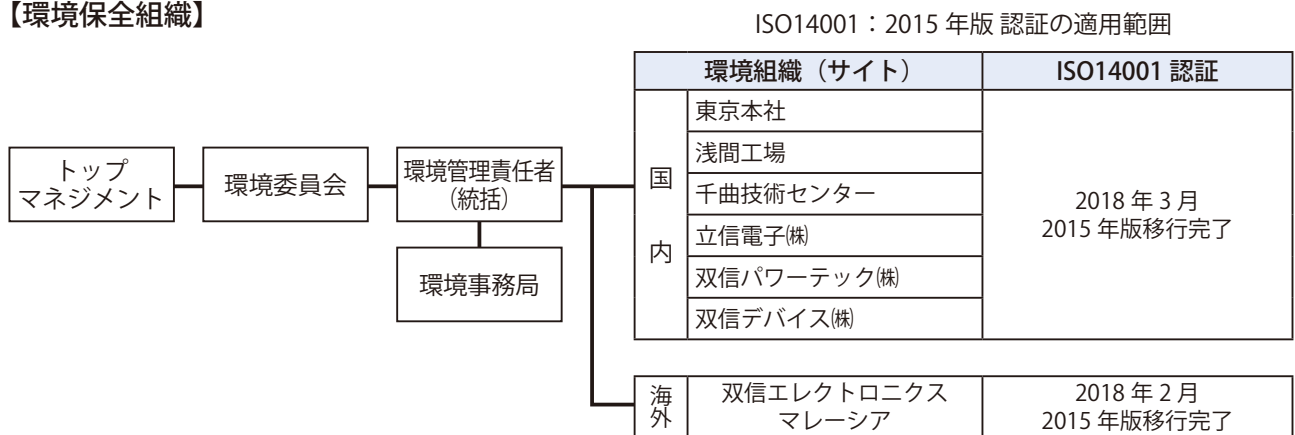
環境組織の活動として、半期ごとに開催される環境委員会の他、環境会議を毎月開催し、CO<sub>2</sub>排出量や産業廃棄物排出量などの目標の進捗管理のほか環境に関する情報交換などを行い、環境保全活動を継続的に推進しています。

#### ◆ISO14001 認証・環境監査

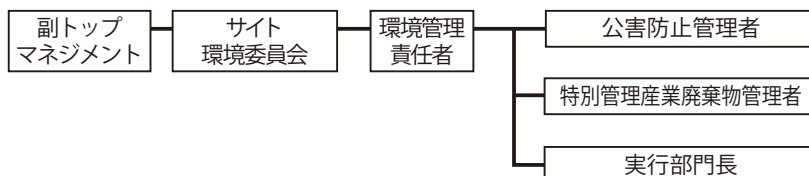
双信電機グループは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001：2015年版への移行を2017年度に完了しています。

環境監査は認証機関による外部監査、環境管理室による環境査察、実行部門が行う内部環境監査を実施しています（内部環境監査員175名）。

#### 【環境保全組織】



#### 【各サイト環境保全組織】



ISO14001 認証機関による監査



## 環境保全活動の概要

気候変動及びその影響を軽減する

13 気候変動に  
具体的な対策を



双信電機グループの環境活動は、環境目的とそれを達成するための環境目標を設定し、自主的な環境保全に努めています。

### ◆ 2017 年度活動報告および 2018 年度目標

#### 【CO<sub>2</sub> 排出量】

2017 年度の環境負荷低減活動としての CO<sub>2</sub> 排出量は、目標を達成しました。

2018 年度は CO<sub>2</sub> 排出削減の取り組みとして、2017 年度に引き続き、照明の LED 化を含む省電力設備への段階的な変更を実施します。

生産性向上、設備稼働ロス・負荷低減、省エネパトロールによる無駄の排除につきましても、継続して実施していきます。

#### 【産業廃棄物排出量】

2017 年度は産業機器関連製品の金属加工ライン本格稼働に伴い廃棄物が増加しました。

2018 年度は、原材料の収率向上をはかり、廃棄物排出量の削減を実施していきます。

また、引き続きゼロエミッションを達成していきます。

#### 【生物多様性保全】

双信電機は軽井沢にある NPO 法人ピッキオの野生動物と人との共存を目指した地域生態系保全活動に賛同し、その活動を支援しています。

#### 【含有化学物質の管理強化】

RoHS 指令におけるフタル酸エステル類規制への対応や、REACH 規則においても管理対象物質が年々追加されており、製品に使用する物質への制限・管理が厳しくなっています。

双信電機グリーン調達ガイドラインに基づき、最新の規制情報にあわせた管理を実施しています。また、製品構成部材の含有化学物質管理を目的に、仕入先の環境品質調査を実施し、グリーン調達活動を進めています。

#### 【環境に関する苦情・事故の有無】

2017 年度は環境に関する苦情・事故は発生しておりません。2018 年度も苦情・事故が発生しないように、環境保全に向けた活動を継続していきます。

### ◆ 主な環境保全活動

項目	2017 年度実績			2018 年度目標
	目標	実績	自己評価	
環境マネジメントシステム (ISO14001)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育と啓蒙活動を継続します。</li> <li>環境マネジメントシステム 2015 年版の 2017 年移行審査受審準備の為、各部門・内部環境監査員への教育を行います。</li> <li>環境法規制を順守します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の周知、環境目標などの環境教育を実施しました。</li> <li>環境マネジメントシステム 2015 年版の環境教育を実施し、移行が完了しました。</li> <li>環境法規制を順守継続できました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育と啓蒙活動を継続します。</li> <li>環境マネジメントシステム 2015 年版の運用を確実にし、各部門・内部環境監査員のレベルアップを図ります。</li> <li>環境法規制を順守します。</li> </ul>
地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の CO<sub>2</sub> 排出量を 7,098t 以下にします。(CO<sub>2</sub> 原単位排出量を 80t/億円以下にします。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の CO<sub>2</sub> 排出量は 2016 年度 6,758t に対し、2017 年度は 6,827t と目標値を達成する事ができました。(CO<sub>2</sub> 原単位排出量は約 78t/億円と目標を達成できました。)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の CO<sub>2</sub> 排出量を 6,989t 以下にします。(CO<sub>2</sub> 原単位排出量を 74t/億円以下にします。)</li> </ul>
廃棄物管理活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量を 240t 以下にします。(ゼロエミッションを継続します)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量は 2016 年度 190t に対し、2017 年度は 247t と目標を達成できませんでしたが、ゼロエミッションを継続しています。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量を 239t 以下にします。(ゼロエミッションを継続します)</li> </ul>
生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO 法人ピッキオへの活動支援を継続します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO 法人ピッキオへの活動支援を実施しました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO 法人ピッキオへの活動支援を継続します。</li> <li>生物多様性についての社内セミナーを実施し、活動の重要性を周知します。</li> </ul>
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>蛍光 X 線分析装置により、海外調達品の受入れ検査を継続及び、仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達ガイドラインを順守します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外調達品の異常はありませんでした。又、仕入先品質調査の結果、問題は無く、グリーン調達ガイドラインを順守できました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>蛍光 X 線分析装置により、海外調達品の受入れ検査を継続及び、仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達ガイドラインを順守します。</li> </ul>
有害化学物質の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>有害化学物質 (PCB、鉛) の削減を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低濃度 PCB 使用機器を一部廃棄しました。</li> <li>鉛使用製品の一部を鉛フリー化しました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCB / 鉛を含む有害物質の削減を更に実施します。</li> </ul>

# 環境報告

## 環境会計

### ◆環境保全コスト、環境保全対策にともなう経済効果

双信電機グループは、環境保全目的として支出した金額を投資額と費用でとらえ、その効果を定量的に把握するため、環境会計を実施しています。

双信電機グループにおける2017年度地球環境保全コストにおいて、省エネ型設備への入替を行い、計2,604万円の投資額となりました。

2017年度の経済効果は2016年度比76万円の増加となりました（年間予想効果は118万円）。

環境保全活動を効率的に実施したことにより、費用は、計2,366万円と前年度より223万円の減額となりました。

廃棄物の再資源化の促進、有価物価格改定により、資源循環効果が前年度比2,477万円増となりました。

2017年度の経済効果は計5,524万円となりました。

実績集計：2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）※環境省環境会計ガイドラインに沿って作成しております。

単位：万円

分類	主な取り組み内容	環境保全コスト				経済効果	
		投資額		費用額		2016年度	2017年度
		2016年度	2017年度	2016年度	2017年度		
公害防止	公害防止のために必要なコスト	0	0	244	174	—	—
地球環境保全	省エネ設備導入等CO <sub>2</sub> 削減のために必要なコスト	103	2,604	156	144	453	529
資源循環	節水等資源効率利用、廃棄物の削減・リサイクル・処理・処分するために必要なコスト	0	0	1,028	988	2,518	4,995
上・下流	事業活動に伴う上流下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト	0	0	0	0	—	—
管理活動	ISO14001認証取得・維持、環境教育、環境負荷の監視測定等環境保全に必要なコスト	0	0	757	771	—	—
研究開発	環境負荷削減の研究開発・企画設計、環境保全に資する製品開発・研究に必要なコスト	0	0	0	0	—	—
社会活動	自然保護、緑化、地域の環境支援、環境情報の公表、環境広告に必要なコスト	0	0	404	289	—	—
環境損傷	土壌汚染による改良、自然破壊修復等に必要なコスト	0	0	0	0	—	—
合計		103	2,604	2,589	2,366	2,971	5,524

## 物質収支(インプット - アウトプット)

化学物質や廃棄物の環境に配慮した管理を実現

12 つくる責任  
つかう責任

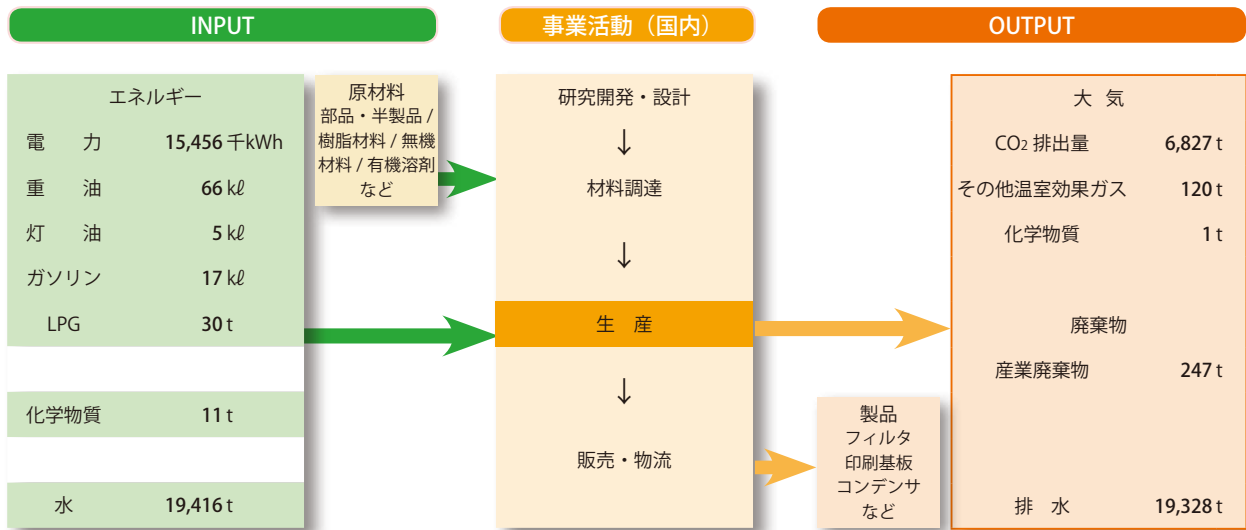


双信電機グループの国内における事業活動に関して、2017年度1年間でインプットされた資源・エネルギーと生産された製品、廃棄物及びその他の排出物（アウトプット）を示します。

### インプット・アウトプットの概要

インプットは、事業活動に必要な部品、原材料、エネルギー、化学物質、水などによって構成されます。アウトプットとしては、製品生産活動にともなうCO<sub>2</sub> 排出、排水、廃棄物などがあります。

双信電機グループでは製品以外のアウトプットを削減するため、省エネ改善や原材料の収率改善によりインプットを極力削減する活動を行っています。



## 含有化学物質管理

### ◆含有化学物質調査

双信電機グループでは、RoHS 指令により 2019 年使用禁止となるフタル酸 4 物質について、2017 年度に全廃しました。

また、得意先からの製品含有化学物質調査依頼に対し迅速に対応できるように、chemSHERPA を導入しました。

※ chemSHERPA とは

サプライチェーン全体で利用可能な製品含有化学物質の情報伝達のための共通スキーム。

### ◆グリーン調達

双信電機グループでは環境負荷の少ない部品・材料の調達を進めており、仕入先への環境品質調査を実施し、化学物質管理に問題が無いことを確認しています。

「グリーン調達ガイドライン」に基づいて、仕入先に積極的な取り組みのご協力をお願いしています。

### ◆蛍光 X 線分析

禁止物質を含有する恐れのある部品・材料については、蛍光 X 線分析装置によるスクリーニング検査を実施し、非含有であることを確認しています。

# 環境報告

## 環境負荷低減活動の取り組み

気候変動及びその影響を軽減する



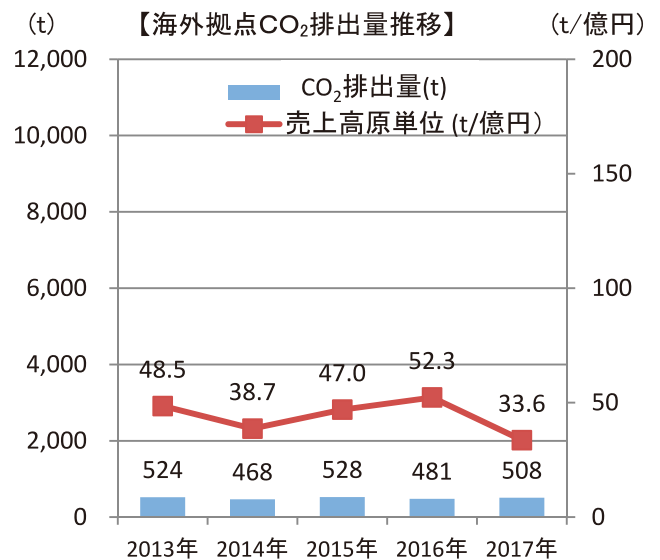
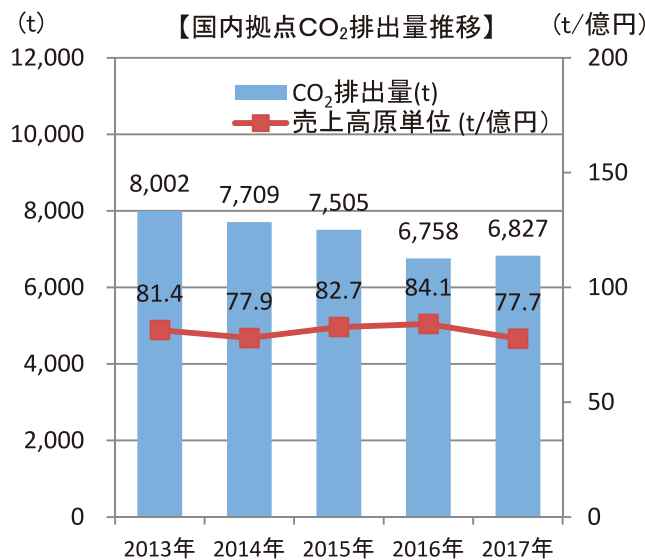
地球温暖化防止への対応として、省エネ等 CO<sub>2</sub> 排出量削減に取り組んでいます。

2017年度の国内のCO<sub>2</sub>排出量は、ノイズ関連部品・厚膜印刷基板などの売上増加により、6,827t、売上高原単位は、78t/億円となりました。

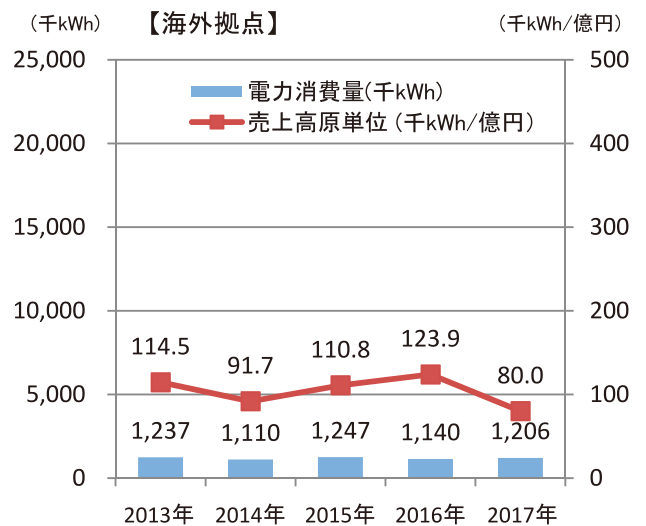
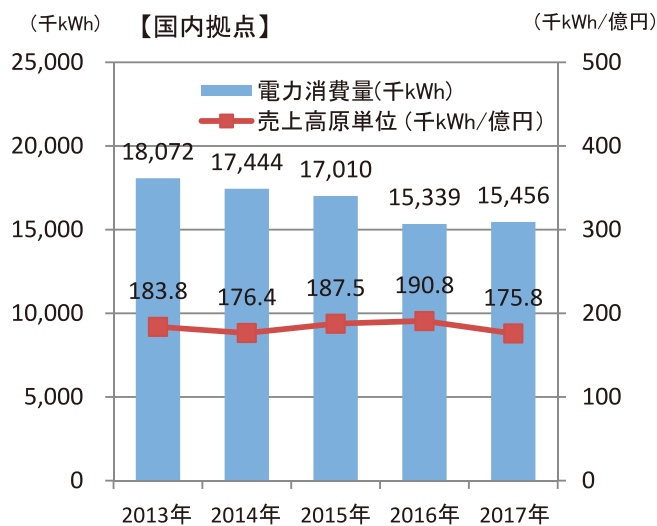
2017年度の海外拠点でのCO<sub>2</sub>排出量は508t、売上高原単位は、34t/億円となりました。

2018年度のCO<sub>2</sub>排出量は、6,989t以下（原単位排出量74t/億円）を目標にします。

### ◆ CO<sub>2</sub> 排出量



### 【参考：電力消費量推移】



## 省 エネ対策事例 ●

### (1) 双信パワーテック 変圧器入替え

双信パワーテックの変圧器を高効率変圧器に入替えました。

電力変換効率が向上し、電力損失の低減がはかれ、CO<sub>2</sub>を年間51%削減(8t)しました。

変更前



変更後



### (2) 浅間工場 ガスヒートポンプ式エアコンの入替え

浅間工場の電気式パッケージエアコンと重油ボイラを、高効率のガスヒートポンプ式エアコンに入替えました。(CO<sub>2</sub>を年間約62%削減)。

変更前

電気式パッケージエアコン



重油ボイラ



変更後

ガスヒートポンプ式エアコン



廃止

# 環境報告

## 資源活用の取り組み

森林経営、砂漠化対処、土地の劣化阻止  
生物多様性損失阻止

15 陸の豊かさも  
守ろう



双信電機グループは、環境保全のため、循環型社会の形成を重要視しています。グループ内の事業活動で排出される廃棄物を資源として捉え、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進しています。

2017年度総排出量 247t に対し、リユースが 150t、リサイクルが 97t で、ゼロエミッションを継続、2018年度は総排出量 239t 以下を目指します。

また、法に基づいた処理が適正に行われるように、行政に認可を受けた廃棄物処理業者とのみ委託契約を結び、マニフェスト（廃棄物管理票）の発行、処理記録を残しています。

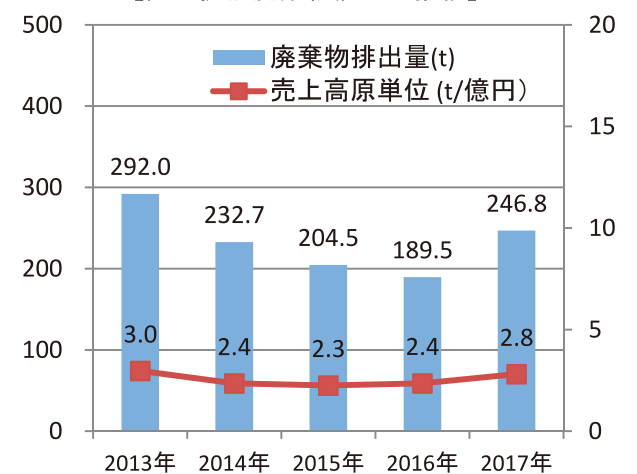
廃棄物処理業者については、処理現場の定期的現地視察を行い、処理に問題が無いことを確認しています。



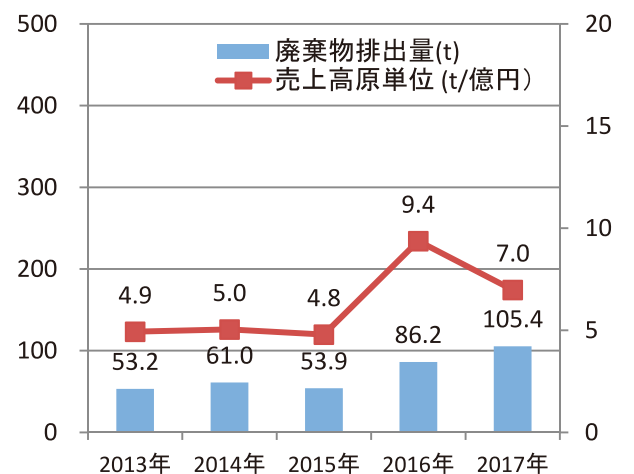
廃棄物処理委託業者現地視察

### ◆廃棄物排出量

【国内拠点廃棄物排出量推移】



【海外拠点廃棄物排出量推移】



## TOPICS

### ◆佐久平駅に「ウェルカムフラワー」設置

長野県佐久市観光協会が実施する「ウェルカムフラワー」に協賛し、佐久平総合技術高等学校（佐久市）の生徒と共に、パンジーを植えたプランター 44 鉢を駅構内に設置しました。

これは、毎年ゴールデンウィークに開催される「佐久バルーンフェスティバル」や「佐久鯉まつり」などのイベントに、県内外からたくさんの観光客が訪れることから、色とりどりのお花でおもてなしをしようとの恒例企画です。



※ SDGs（持続可能な開発目標）の弊社に関連する 5 項目について、各ページの表題の所に目標のロゴマークを提示しております。

# 「2018 社会・環境レポート」アンケート

双信電機グループの「2018 社会・環境レポート」をお読みいただき、ありがとうございます。  
この報告書について、是非ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。  
ご意見・ご感想は、今後の環境保全活動及び弊社レポート作成の参考にさせていただきます。

\*以下の質問に該当する項目にを入れてください。

Q 1 弊社レポートをお読みになった感想をお聞かせ下さい。

1) 全体の印象について

良い

ふつう

悪い

2) わかりやすさについて

良い

ふつう

悪い

3) 内容について

良い

ふつう

悪い

Q 2 弊社レポートで特に興味を持たれた記事があればお聞かせ下さい。

( ) ページ                      テーマ ( )

Q 3 環境保全活動や弊社レポートについてのご意見・ご感想をお願いします。

ご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。差支えなければ下欄にもご記入をお願いします。

\*ご記入いただいた個人情報についてはアンケート記載の用途以外には使用致しません。

お名前： \_\_\_\_\_ 男・女 \_\_\_\_\_ 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

ご住所： \_\_\_\_\_

ご職業・勤務先： \_\_\_\_\_

お手数ですが下記あてに FAX または E-mail をいただければ幸いです。

送付先 **双信電機株式会社 環境管理室 宛**

Tel. 0267-67-4580 Fax. 0267-68-4553

E-mail: environment@soshin.co.jp

# 2018 社会・環境レポート



**双信電機株式会社**  
**SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.**

URL : <http://www.soshin.co.jp>

〒105-0023 東京都港区芝浦1丁目1番1号 浜松町ビルディング14F  
Tel: 03-5730-4500 Fax: 03-5730-4504

この報告書の内容に関するご意見・お問い合わせ先  
環境管理室

Tel: 0267-67-4580 Fax: 0267-68-4553  
E-mail: [environment@soshin.co.jp](mailto:environment@soshin.co.jp)

